

5. 活動報告

5. 1. 会議録

(1) 第1回 宮城県沖地震における重点的調査観測運営委員会 議事録

日 時 平成17年12月13日(火) 15時00分～17時20分

場 所 東北大学大学院理学研究科 地震・噴火予知研究観測センター第一会議室

出席者 (委員)

東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	教授	長谷川 昭
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	助教授	日野 亮太
東北大学大学院理学研究科環境地理学講座	教授	今泉 俊文
産業技術総合研究所活断層研究センター	研究チーム長	岡村 行信
東京大学地震研究所地震火山災害部門	教授	瀬瀬 一起
東北大学大学院理学研究科固体地球物理学講座	教授	佐藤 春夫
東京大学地震研究所地震予知研究推進センター	教授	平田 直
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	教授	海野 徳仁
海洋研究開発機構 地球内部変動研究センター	プログラムディレクター	金田 義行
防災科学技術研究所	総括主任研究員	堀内 茂木
仙台管区气象台 技術部	地震情報官	青木 元
東北大学大学院理学研究科環境動態論講座	教授	箕浦 幸治
東北大学大学院工学研究科災害制御研究センター	教授	源栄 正人

(オブザーバー)

文部科学省研究開発局地震・防災研究課	本部係長	和田 弘人
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	地震調査官	碓井 勇二
東北大学大学院理学研究科・理学部・理学研究科事務部	事務長	渋谷 幸雄
東北大学大学院理学研究科 理学部・理学研究科事務部	事務長補佐	早坂 英美
東北大学大学院理学研究科 理学部・理学研究科経理係	経理係長	四ノ宮祐一
東北大学大学院理学研究科 理学部・物理系専攻事務室	室長	佐々木貞之
気象庁地震火山部地震津波監視課	調査官	田中昌之
地震・噴火予知研究観測センター	教授 藤本博巳、助教授 松澤 暢、助手 西野 実 研究員 内田 直希、博士課程後期 山本 揚二郎	

議事概要

議事次第に入る前に、委員の出欠席ならびに配布資料の確認が行われた。なお、以下の追加資料も配布された。

追加資料：文科省 概要書

東北大 提案書・業務計画書

その後、出席者の自己紹介が行われた。

1. 今後の重点的調査観測について（文科省：碓井） 概要書
碓井地震調査官より、活断層で発生する地震及び海溝型地震を対象とする重点的調査観測について、説明があった。
海溝型地震の重点的調査観測の対象地域として、予測地震規模：M7.5 前後、30 年以内の発生確率：99%という地震発生の可能性の高い宮城県沖地震を取り上げた。また、本委託事業について重要視しているので、委託事業の成果そのものは文部科学省に帰属するが、一方で成果は積極的に学会等に発表して欲しいと説明があった。

2. パイロット的重点調査観測のレビュー（東北大理：長谷川） 資料 17-1-0
長谷川委員より、今回の宮城県沖重点調査観測の研究を行う経緯を知っていただくために、過去における宮城県沖地震(1936年以降)と8/16に起こった宮城県沖地震を比較するなど、昨年度まで3年間にわたって行ってきたパイロット的重点調査観測、17年度突発災害（科研費）の研究成果報告を行った。

3. 8/16の宮城県沖の地震と過去の宮城県沖地震との比較（仙台管区気象台：青木） 資料 17-1-1
8/16前後の地震活動（12/11までを調査）、1923年から2005年12月11日までの地震活動について震度と津波、M6以上の地震などを比較しながら説明した。8/16の地震は想定震源域を一部破壊しただけであり、今後、どの程度の大きさのアスペリティが残っているか今回研究が行われる重点調査観測での命題になると説明があった。

4. 宮城県沖地震アスペリティ周辺におけるプレート間すべりのモニタリングの実現 資料 17-1-2・3
(東北大理：日野)
東大地震研金沢教授が欠席のため、日野委員が長期海底地震観測・短期海底地震観測の両方の説明を行った。
今回の宮城県沖重点調査観測では2種類の海底地震計を用い、そのうち長期型OBS（1年用）をモニタリングに対応可能な連続的データの取得のために運用する。そのため観測点の増強（15観測点）を行う。また、短期型OBS（3ヶ月用）は長期観測網の補助に使用し、活動度に応じた機動的運用をすることを説明した。
また、今後も気象庁と協力をしながら、5年間で海底地震観測の充実を図るつもりであることを説明した。

5. 仙台・石巻平野における地質調査に基づく過去の活動履歴の把握

(産総研：岡村) 資料 17-1-4

仙台・石巻平野における地質調査の全体計画について説明を行った。今年度の計画としては、仙台平野の中南部及び石巻平野西部を中心に調査し、約 1000 年前に降下した十和田起源火山灰の分布を明らかにする。また津波来襲時の海岸位置を特定し、津波の浸水距離を推定する。さらに環境変動の影響を受けていない本調査に適した地点を見つけるために、仙台平野で調査を実施することを説明した。

6. 過去の活動履歴を把握するための地質学的調査（沿岸域における地質調査）

(東北大理：今泉) 資料 17-1-5

宮城県沖地震や三陸沖の地震の活動履歴を、地質学的調査により解明することを目的とし、今後 5 年間の活動計画を説明した。

今年度は津波堆積物の採取に成功した三陸沿岸の大槌地区周辺の内湾で音波探査調査を行うとともに、対比するために宮古湾音波調査、大槌町吉里吉里地区でのボーリング・ジオスライサーによる堆積物採取調査と年代測定を行うことを説明した。

7. 仙台圏における高精度強震動評価の実現（東大地震研：額瀨） 資料 17-1-6

19 年度から 21 年度にかけて本計画で研究を行うことを説明した。速度型強震計を用いた観測を行い、そのデータを他のサブテーマで得られる震源域の情報や、過去の宮城県沖地震等のインバージョン解析結果を総合して、強震動評価のための震源モデルを構築する。また、表層増幅率地図を作成する。それらを用いて仙台圏などの強震動評価の高精度化を図ることを目的とすることを説明した。

8. 運営委員会規則の承認

佐藤委員長より、第 5 条 2 において、委員長代理を東北大理：海野教授にお願いし、了承された。

作成者：事務局 飯淵 みか

(2) 第2回 宮城県沖地震における重点的調査観測運営委員会 議事録

日 時 平成18年3月30日(木) 10時25分～11時50分

場 所 エルパーク仙台 セミナー室

出席者 (委員)

東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	教授	長谷川 昭
東京大学地震研究所地震地殻変動観測センター	教授	金沢 俊彦
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	助教授	日野 亮太
東北大学大学院理学研究科環境地理学講座	教授	今泉 俊文
産業技術総合研究所活断層研究センター	研究チーム長	岡村 行信
東京大学地震研究所地震火山災害部門	教授	瀬瀬 一起
東北大学大学院理学研究科固体地球物理学講座	教授	佐藤 春夫
東京大学地震研究所地震予知研究推進センター	教授	平田 直
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	教授	海野 徳仁
海洋研究開発機構 地球内部変動研究センター	研究員	藤江 剛
防災科学技術研究所	総括主任研究員	堀内 茂木
仙台管区气象台 技術部	地震情報官	青木 元
東北大学大学院理学研究科環境動態論講座	教授	箕浦 幸治
東北大学大学院工学研究科災害制御研究センター	教授	源栄 正人

(オブザーバー)

文部科学省研究開発局地震・防災研究課	本部係長	和田 弘人
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	地震調査官	碓井 勇二
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	振興係員	井上 祐樹
東北学院大学教養学部 地域構想学科	教授	松本 英明
大阪市立大学大学院理学研究科都市地盤構造学講座	助教授	原口 強
千葉大学理学部地球科学教室	助教授	宮内 崇裕
海上保安庁海洋情報部航法測地室	主任衛星測地調査官	藤田 雅之
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	助教授	松澤 暢

議事概要

議事次第に入る前に、第一回議事録を終了までに見ていただき、修正・確認をお願いした。また、委員会の時間が90分ということで、一人当たり20分の持ち時間でお願いをした。

1. 来年度の全体計画について (文科省：碓井)

碓井地震調査官より、H18年度の本事業の予算額等について説明があった。また研究成果

については、わかりやすい形で社会に還元していただきたい旨の説明があった。

2. 宮城県沖地震アスペリティ周辺におけるプレート間すべりのモニタリングの実現

(東北大理：日野) 資料 17-2-0・1

日野委員から、東大地震研が担当する内容も含め、今年度の成果についての報告があった。8月16日に発生した地震の前後におけるプレート間すべりの状況を、海底地震観測、相似地震観測、GPS 観測から推定した結果が報告された。また、18年度も気象庁と協力しながら、引き続き海底地震観測の充実を図るつもりであることを説明した。

3. 仙台・石巻平野における地質調査

(産総研：岡村) 資料 17-2-2

岡村委員が仙台・石巻平野における地質調査の報告を行った。今年度は、水神沼・山元町・亘理町・仙台空港周辺において調査を実施し、各地において得られた地質サンプル中に約1000年前に仙台平野を襲った貞観の津波による津波堆積物を認めることができたことが報告された。

4. 過去の活動履歴を把握するための地質学的調査（沿岸域における地質調査）

(大阪市立大理：原口) 資料

17-2-3

今泉委員に代わり、原口博士より今年度の業務実施状況ならびに成果についての報告があった。今年度は、大槌地区周辺で音波探査調査およびボーリング・ジオスライサーによる堆積物採取調査を実施し、過去5000年間に大規模な津波イベントが約500年間隔で発生していたことが明らかになったと報告された。

5. 第一回運営委員会議事録の承認

特に訂正・意見等がなかったので、議事録は承認をされた。

6. 成果報告書について（文科省：碓井）

平成17年度の成果報告書は、以下のスケジュールで進めたい。

4/24までに1部作成し、文部科学省の担当者に提出。

5/17までに文部科学省は修正事項を連絡。

5/30までに、H17年度成果報告書を3冊作成し、文部科学省に提出。

なお、東北大は再委託分も合わせて成果報告書を取りまとめる。

作成者：事務局 飯渕 みか